

美術

美術においては、感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりする力を育むことが課題です。そのため、育成する資質・能力を明確にした評価規準を設定すること、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ることができるよう学習過程を重視すること、発達の段階を踏まえて学習活動の充実を図るとともに、1人1台端末を効果的に活用することが大切です。

I 目標の明確化や評価の充実のポイント

育成を目指す資質・能力を明確にするためには、適切な内容の設定と、具体的な評価規準の設定が大切です。題材の内容は多様な活動を通して資質・能力を育成するため、作品の制作を目的とせず、何から発想するのか、どのような材料を扱うのかなど、生徒の実態を踏まえて設定し、指導に当たる必要があります。

また、学習評価を生徒の学習改善や教師の指導改善につなげ、指導と評価の一体化を図ることが重要です。単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にすること、単元の指導計画の終末における生徒の具体的な姿をイメージすること、単元の指導計画におけるバランスのよい観点別学習評価を行うこと、1単位時間ごとの終末における生徒の具体的な姿をイメージすることなど、目標の明確化と評価の充実を図る必要があります。

II 指導計画の改善のポイント

発想や構想は、主題がまず始めにあって、それに従って表現していくという一方向の表現過程のみならず、発想し構想を練りそれを表現していく過程で表しながら考え、試行錯誤しつつ発想や構想をしたことを見直したり修正を加えたりして、更によいものへと創意工夫をしながら循環的に高まっていくようにすることが大切です。

自分の表したいことを具現化できるように表現の効果などを考えながら、計画を立てて表すことができるよう、生徒一人一人の表したいものに応じて、それにふさわしい大きさや形体、つくり方などについての適切な指導を行い、完成までの目標と見通しをもって計画的に表すことができるようにすることが大切です。また、見通しをもたせるためには、生徒の実態に合った表現方法や材料を選定することが大切です。そのため、程度が高すぎたり、表すことに過度に時間がかかったりしないような題材の設定に対する配慮が必要です。

III 手立ての充実のポイント

生徒が感性や想像力等を働かせることができるよう、第1学年と第2学年及び第3学年で、発達の段階を踏まえて学習活動の充実を図ることが大切です。例えば、表現の学習活動において、第1学年における自然をはじめとする身近な事物に加え、第2学年及び第3学年では、自己の内面や社会の様相などを深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に発想や構想をすることをねらいにしていることなど、学年の系統性について十分に理解した上で指導に当たる必要があります。

また、美術科の表現の可能性を広げるために、写真・ビデオ、コンピュータ等の映像メディアの積極的な活用を図るようにすることが大切です。特に、映像メディアは、アイデアを練ったり編集したりするなど、発想や構想の場面でも効果的に活用することができます。例えば、1人1台端末を活用して写真を撮影する際、事物の対象に対し、どのような興味をもち感動したのか、何を訴えたいのかなどを考え、効果的に表現するために構図の取り方、広がりや遠近の表し方などを工夫することなどが考えられます。

ICTの特長は、何度でもやり直しができたり、取り込みや貼り付け、形の自由な変形、配置換え、色彩換えなど、構想の場面での様々な試しができたりすることにあることから、そのよさを生徒に気付かせるようにするとともに、それを生かした楽しく独創的な表現をさせることが重要です。なお、1人1台端末の活用にあたっては、実際にもものに触れたり、実物を見たりすることが美術科では重要であることも踏まえ、学習のねらい、題材の特質及び生徒の実態等に応じて、必要性について十分に検討した上で、有効に活用することが大切です。

〔参考資料〕

StuDX Style
教科等における1人1台端末の活用
教科等での活用
〔中学校 美術・事例〕
(文部科学省)



感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりする力を育む計画の改善

< 題材名 >

「想像の生物をつくる～もしも、学校に〇〇がいたら～」

< 題材の目標 >

- ・実際の生物や身の回りのものから発想を広げ、色や形を工夫して、想像の生物をつくることができる。
- ・できあがった作品を、見せ方や撮影方法を工夫してタブレット端末で撮影し、写真作品を仕上げることができる。
- ・想像から生まれたクラスメイトの作品を鑑賞し、表現の工夫を感じ取り、自分の作品と比較するなどして振り返ることができる。

【Ⅰ資質・能力の明確化】
・具体的な評価規準を生徒に提示し、育成を目指す姿を教師と生徒が共有できるようにしている。

< 題材の評価規準 >

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①形や色、材料などが感情にもたらす効果を利用して、表現したい思いや願い、想像の生物に託した気持ちを表現している。(知識) ②粘土の材料の特性を生かし、表現意図を明確にして自分の表現方法を追求して作品を制作している。(技能)	①実際の生物や、身の回りのものから想像を広げることで主題を生み出し、色や形を利用して、表現する構想を練っている。(発想や構想) ②クラスメイトの創り出した想像の生物の表現意図を感じ取り、自分の作品と比較しながら、面白さを感じ取っている。(鑑賞)	①創造の活動を味わい、積極的に発想を広げようとしたり、つくる表現の学習活動に取り組もうとしたりしている。(態表) ②日々の活動を客観的に振り返り、自分の課題や今後の見通しをもちながら、題材の主題に沿って活動を粘り強く続けようとしている。(態鑑)

< 題材の指導計画 12 時間 >

学習過程	学習活動	評価規準・評価方法等	
発想や構想と撮影 (1・2)	○題材理解、色彩の基礎知識1 (ポスターカラー着彩) ○色彩の基礎知識2 (ポスターカラー着彩) ・実際の生物や身の回りのものから想像を広げることで主題を生み出し、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構想を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。 ・形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、想像の生物に対する願いや思いを全体のイメージで捉えることを理解する。	主体・知技/知技 ※制作ノートについては、単元を通して活用し、アイデアスケッチや発想や構想を繰り返して検討する生徒の学習過程が見えるよう留意する。	【Ⅱ学習の見通し】 ・制作を進めるに当たっては、条件等を生徒と事前に共有することで、単元の終末のイメージを具体的に伝え、生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう、制作における条件について、単元を通して、生徒が意識して学習を進めることができるようにしている。
相互鑑賞 発想や構想 (3・4)	○色彩の基礎知識3 (基礎知識の学習) ○作品テーマ決定 (生物、撮影場所) ・実際の生物や身の回りのものから発想を広げ、形や色を工夫して想像の生物をつくる。	知技/主体 ※主題を生み出す際に、どのような思いで制作しているかを互いに感じ取れるようにする。	【Ⅱ表現過程の工夫】 ・試行錯誤しつつ発想や構想をしたことを見直したり修正したりして、更によりものへと創意工夫できるようにしている。
発想や構想 (5・6)	○作品アイデア構想 ○技法の獲得 (色彩の学習を利用した粘土の混色) ・想像から生まれた様々な作品を相互に鑑賞し、表現の面白さや作者の意図を感じ取る。 ・粘土や紙などの材料の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して想像的に表す。	思判表/知技 ※ロイロノートを活用し、生徒の学習状況を細かに把握し、必要な手立てを講じる。	【Ⅰ学習評価の充実】 ・観点別の学習評価を生徒と事前に共有することで、教師が継続的に一貫した視点で評価できるようにしている。
制作や撮影 (7～10)	○作品本制作1 ○作品本制作2 ○作品本制作3・撮影、印刷 ○作品本制作4・撮影、印刷 ・実際の生物や身の回りのものから想像を広げることで主題を生み出し、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構想を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。	思判表/主体/知技 ※振り返りシートについては、単元を通して活用し、観点ごとに具体的な生徒の姿をイメージし、生徒と共有した上で学習評価を行うようにする。	【Ⅲ1人1台端末の活用】 ・端末を活用して作品を撮影する際には、表現の意図などを明確にし、効果的に表現するための構図の取り方、広がりや遠近の表し方などを工夫できるようにしている。
鑑賞 (11・12)	○相互鑑賞 ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に想像から生まれた様々な作品から表現の面白さを感じ取る鑑賞の学習活動に取り組む。	主体・思判表/知技 ※造形的なよさや美しさを感じ取り、見方・感じ方を深める。	